以テ事ニ當リ、他方ニ於テハ獨立獨行猶ホ克ク斯業ノ發達ヲ期スルノ覺悟アランコトヲ要ス。是レ特ニ予輩ガ、當業者諸氏幷ニ現存諸同業組合ノ一顧ヲ煩ハサント欲スル所ナリ。



# 第貳卷　福岡市機業調査報告書

# 福岡市機業調査報告書目次


頁數

緒論……百五十九

第一章　博多織業ノ發達史……百五十九

第一節　博多織ノ起源……百五十九

第二節　文祿慶長年間ニ於ケル博多織ノ聲譽……百六十一

第三節　明和年間博多織業ニ對シ藩主ヨリ下セル成規並ニ其影響……百六十二

第四節　博多織販路ノ擴張幷ニ他地方ニ於ケル本品ノ製織……百六十三

第五節　維新以後ノ博多織業……百六十四

第一款　粗製濫造ノ時代……百六十四

第二款　博多織會社……百六十四

第三款　博多織業ノ回復……百六十五

第二章　博多織同業組合……百六十六

第三章　福岡縣工業學校……百七十七

第四章　博多織ノ原料……百七十八

第五章　染色……百七十八

第六章　織機……百八十
第七章　博多織ノ種類……百八十一
第八章　製品ノ等級及ビ標章……百八十三
第九章　品位……百八十四
第十章　産額……百八十五
第十一章　賣買……百八十七
第一節　販路及販賣ノ方法……百八十七
第二節　賣買單位及價格……百八十八
第一款　賣買單位……百八十八
第二款　價格……百八十八
第三節　荷造……百九十一
第四節　運送及保險……百九十一
第十二章　職工及ヒ徒弟……百九十二
第一節　職工及徒弟ト主家トノ關係及ビ其風儀……百九十二
第二節　賃銀及其仕拂方法……百九十三
第三節　勞働時間及休日……百九十四



第四節　奬勵方法……百九十四
第十三章　博多機業ニ對スル意見……百九十五
第一節　現時ニ於ケル博多機業ノ批評……百九十五
第二節　博多機業振興策ヲ論ズ……百九十六
第一款　意匠ノ奬勵發達……百九十六
第一項　職工奬勵金……百九十八
第二項　意匠研究會……百九十九
第三項　共進會ノ改良……百九十九
第二款　製織種類ノ擴張……二百
第三款　海外輸出ノ奬勵……二百一
第三節　結論……二百二

# 福岡市機業調査報告書

## 緒論

福岡市ニ於テ、織物ノ見ルベキモノ唯博多ノ博多織アルノミ。其他ノ織物ニ至テハ、產物トシテ稱スルニ足ラズ。而モ博多織ハ其用途甚ダ多カラズ、從テ其需要少ク、其販路割合ニ狹ク、福岡縣下ノ織物トシテハ、其產額ニ於テ、遠ク久留米ノ久留米絣ニ及バズ。若シ我國機業ノ全般ヨリシテ之ヲ觀レバ、博多織ハ古來ノ「名物」タルニ過ギズ。殊ニ近時八王子、京都、桐生、米澤ノ諸地方ニ於テ、巧ニ博多織ヲ摸造シ、此等諸地方ノ特技ヲ以テ、細絲ヲ用ヒテ外觀ノ美ヲ加ヘ、種々ノ意匠ヲ凝ラシテ、珠珍ノ如キ紋樣ヲ織出スアリ。殊ニ八王子製ノ博多ハ稱スルニ關東博多ヲ以テシ、本場博多織ノ販路ハ、漸ク此等摸造品ノ蠶食スル所トナレリ。然リト雖モ、博多織業ノ起源タル極メテ古ク、今尙ホ福岡市ニ於ケル重要ナル產業ノ一ニシテ、其製品ノ意匠ノ如キ、殊更ニ改革スル所ナシト雖モ、尙ホ一種ノ特色ヲ有シ、本場博多織タルノ聲譽ヲ維持スルニ足ルモノアリ。請フ以下ニ同市博多織業ノ過去及現在ニ就テ、調査セルモノヽ要領ヲ記述スル所アラン。

## 第一章　博多織業ノ發達史

### 第一節　博多織ノ起源

今ヲ去ル六百六十餘年前、博多ノ商人ニ滿田彌三右衛門ナルモノアリ。夙ニ支那ニ航シテ、其工業ヲ視ルノ志アリ。時ニ京都東福寺ノ僧辨圜宗ニ入ラントシ、博多ニ來リテ便船ヲ待ツ、偶々奇禍ヲ得テ彌三右衛門

ノ救フ所トナル。彌三右衛門乃チ語ルニ平素ノ志望ヲ以テシ、嘉禎元年四月相伴フテ彼地ニ渡ルコトヲ得タリ。彌三右衛門彼國明州ニ留マルコト凡ソ六年、織物、朱燒、箔燒、索麵及ビ麝香丸ノ五科ヲ習ヒ、辨園ト共ニ歸朝シ、之ヲ博多ノ時人ニ傳ヘ、唯織物業ノミハ其家傳トシテ之ヲ秘セリ。當時彌三右衛門ノ織出セルハ、廣東織、緞子織、吳織、漢織等ノ數種ナリシガ、其紋樣皆彼地ノモノヲ摸倣スルニ過ギズ。後意匠ヲ辨園ニ謀リ、佛具ノ獨鈷及ビ華皿ノ浮線紋アル織物ヲ製セリ。其地色白クシテ美觀アリシカバ、名ケテ雪下織ト稱セリ。又竹下織ナルモノヲ織出セシモ其地質等詳カナラズ。

滿田家ノ織物業ハ、其後數代之ヲ傳ヘシモ、彌三右衛門ノ死後凡ソ二百五十年ニシテ、其業漸ク衰ヘ、一時中絶シタリシガ、天文年中、彌三右衛門ノ遠孫滿田彦三郎博多ノ豪商神屋、島井ノ二人ニ從ヒ、楊州廣東地方ニ航シ、織物ノ法ヲ究メテ歸リ、再ビ祖先ノ業ヲ興セリ。是ヨリ後凡ソ百年寛永年間、滿田助九郎ノ代ニ當リ、肥前嶋原ノ役起ルニ及ビ、故ヲ以テ國退ヲ命ゼラレ、姓ヲ變ジテ僅ニ此地ニ住シ、玆ニ同家ノ織物業ハ廢セラルヽニ至レリト云フ。

然レドモ彌三右衛門ニヨリテ傳ヘラレ、彦三郎ニヨリテ再興セラレタル廣東織ハ、是カ爲ニ廢絶セラレタルニ非ズ。是ヨリ先、天文年間彦三郎ノ代ニ當リ、竹若伊右衛門(始ノ名藤兵衛)ナルモノ、請フテ悉ク其技術ヲ習ヒ天正年中一種ノ織物ヲ發明セリ。其地質ハ稍ヤ琥珀織ニ似テ甚ダ厚ク、摸樣ハ浮線文アリ柳條アリ、時人地名ヲ採リテ之ヲ覇家臺織ト稱ス。是ヲ今日博多帶地トシテ知ラルヽモノヽ起源トス。

一說ニ曰ク。伊右衛門ハ別ニ織物ヲ發明セシニ非ズ。是マデ硯田家ニ傳ハリタル廣東織ノ價高クシテ、貴人ヲ除ク外、之ヲ衣類ニ用ヒヤリシガ、其質堅固ナルガ故ニ、男女共ニ裁テ帶トナセリ。伊右衛門乃チ狹幅ノモノヲ製シ、專ラ帶地ニ適セシメタルナリト。

## 第二節　文祿慶長年間ニ於ケル博多織ノ聲譽

天正年中竹若伊右衛門ガ博多織ヲ製シテヨリ、其名遠近ニ聞ユ。伊右衛門ノ養子惣右衛門ニ三子アリ、忠太夫(後伊右衛門ト改ム)惣左衛門及藤兵衛是ナリ。父子共ニ頗ル妙技ヲ究メ、博多織ノ名益々揚ガル。文祿元年、豐太閤征韓ノ擧アリ、博多ニ上陸ス。市民乃チ諸種ノ物ヲ獻ズ、中ニ緞子、雪下ノ諸絹布アリキ。伊右衛門(忠太夫)ハ又特ニ「天下泰平國家安穩日月浪淸」ナル十二字ヲ組織セル下緒ヲ製シテ之ヲ獻ズ。太閤大ニ悅ビテ宅地ヲ賜フ。而シテ末弟藤兵衛ハ兄伊右衛門ノ養子トナリ、本家ヲ嗣ギテ家傳ノ博多織業ヲ營ミ且ツ太閤ノ御用ヲ勤ムルニ至レリ。

慶長五年黑田長政入國ノ時、伊右衛門ヨリ種々ノ博多織ヲ獻ゼシニ、長政大ニ之ヲ賞シ扶持ヲ賜ハリ、且ツ軍旗及定格獻上品ノ御用ヲ命ゼラル。子孫是ヨリシテ代々黑田家ノ織物師トナレリ。當時軍旗等ノ製造ハ、極メテ嚴肅ニシテ工場ノ周圍ニ七五三繩ヲ飾リ、職工ノ身体ヲ淸メ、不淨者ノ出入ヲ禁ジテ、以テ之ヲ織出セリ。サレバ、此御用ヲ仰付ケラル、ハ大ニ名譽トスル所ニシテ、黑田家ノ軍旗及獻上品ハ本家ノ專業ニ屬シ他家ハ勿論分家ニテモ之ヲ製スルコトヲ禁ゼラレタリ。其軍旗ハ白地ニシテ獨鈷華皿ノ織出アリ、即チ昔時滿田彌三右衛門ノ製出セル雪下織ナリシナラント云フ。又其定格獻上品ト稱スルハ、黑田藩主ガ毎年三月博多男帶十筋、博多生絹三疋ヲ德川幕府ニ獻ゼシモノニシテ、世嗣アレバ更ニ同樣ノ獻上ヲナシ、且ツ老中若年寄諸役人等ニモ之ヲ贈ルヲ例トセルナリ。此中博多生絹ト稱スルハ白絹布ニシテ、往時ノ筑紫絹ニ似專ラ貴人ノ下衣ニ用フル汗衣ナリキ。筑紫絹ノ起源ハ詳カナラズト雖モ、是ニ生絹、練絹ノ二種アリ、共ニ竹

若家ニ傳ハレルモノナリト云フ。

要スルニ當時ノ博多織ハ、寶暦ノ頃マデ、竹若家ノ專業ニ屬シ、其業徐々トシテ發達シ、其聲譽亦次第ニ揚ガリ、博多織ノ名ハ、諸國大名ノ間ニ傳ハリ、其需要年毎ニ增加スルニ至レリ。

## 第三節　明和年間博多織業ニ對シ藩主ヨリ下セル成規並ニ其影響

前節既ニ述ベシガ如ク、博多織ノ業ハ專ラ竹若家ニ屬シ、寶暦年間此業ヲ營メルモノ竹若伊右衛門、同惣右衛門及同市左衛門ノ三家ノミナリキ。然ルニ本品ノ需要益々增加セルヨリ、明和ノ始メ（今ヲ去ル百三十餘年前）ニ至リ、黑田家ヨリ本業ニ對スル成規ヲ定メ、由緒アルモノ九戸ヲ增シテ十二戸トナセリ。

是ヨリ博多織業ヲ以テ、全ク此十二戸世襲ノ事業トナシ、粗製濫造ヲ防ギ、密カニ他家ノ之ヲ營ムコトヲ禁ジ、モシ之ヲ犯スモノアレバ、目付役吏之ヲ差押ヘ町奉行ニ引渡シ、當業者ノ頭取立會ニテ處罰スルコトヽセリ。而シテ當業者ハ一定ノ運上金ヲ藩主ニ納付スベキコトヽナシ、廢業スルモノアル時ハ、殘存セル當業者ヲシテ其稅ヲ負擔セシメラル。

又當時木綿博多ト稱シ、經緯共ニ綿絲ヲ用ヒテ浮線紋ヲ織出セルモノアリシガ、是亦其織屋ノ數ヲ定メテ、六戸ニ限レリ。然ルニ木綿博多ハ世ノ嗜好ニ適セザリシガ爲メ、遂ニ廢滅ニ歸スルニ至レリ。

黑田家ガ博多織ニ制限ヲ設ケテヨリ、之ヲ粗製シ之ヲ濫造スルノ弊ハ則チ之ヲ防グコトヲ得タリシガ如シ。然リト雖モ、其業タル全ク獨占的ノ性質ヲ帶ビ、當業者ノ競爭行ハレズ、皆舊態ニ安ンジテ、其改良ヲ事トスルモノ稀ニシテ、其發達ノ遲々タリシハ免ル可カラサル現象ナリシガ如シ。加之、當業者間ニ「織屋株」ナルモノヲ生ジ、本業ヲ營マント欲スルモノハ「株」ヲ買受ケ若クハ一時借用ヲナスコトヲ要スルニ至リ、有爲ノ士ヲシテ其技ヲ試マシムル能ハザラシメキ。此「織屋株」ハ明治維新ノ際マデ繼續シ、維新ノ頃ニハ其數十一アリキ。

當時博多織業者ノ數ニ制限アリシノミナラズ、各藩皆其固有ノ工業ヲ秘密ニシ、其間ノ交通自由ナラズ、博多織ノ法モ之ヲ他藩ノ人ニ傳フルハ堅ク禁ゼラレタル所ナリキ。サレバ、織法染法等ノコトニ關シ、互ニ長短相補フコト能ハズ。且ツ其販路モ一地方ニ限ラルヽノ傾アリシガ故ニ、博多織ノ如キモ、其色合模樣等多少時々流行ノ變化ヲ追フモノアリシモ、多クハ千變一律ニシテ、其用途一定シ、種類亦少ク、其染法織方等頗ル簡單ナリキ。

## 第四節　博多織販路ノ擴張幷ニ他地方ニ於ケル本品ノ製織

文化ノ頃、博多織ハ漸ク衰頽ニ赴キ、其販路大ナラズ。文化十二年山崎藤兵衞ナルモノ、博多織及ビ博多絞ヲ携ヘテ江戸ニ赴キ、頻リニ其販路ノ擴張ヲ務ム。而モ世ノ嗜好ニ適セズ。藤兵衞乃チ一策ヲ案ジ俳優市川團十郎及ビ岩井半四郎ニ謀リ、博多絞ヲ浴衣ニ仕立テ博多織ヲ帶トシテ兩優ヲシテ之ヲ芝居ニ於テ用ヒシメ、大ニ觀客ノ賞スル所トナル。江戸ニ於ケル博多織ノ需要是ニ於テカ始メテ起リ、盛ニ江戸ニ流行シ、遂ニ一般ノ使用ニ供セラルヽニ至レリト云フ。

文政年中職工卯作ナルモノ、播州ニ至リ、國禁ヲ犯シ、其地ノ人々ニ博多織業ヲ傳ヘテ以テ口ヲ糊ス。國主吏ヲ遣リテ之ヲ捕ヘシム、果サズシテ歸ル。是ヲ播筑博多織ノ濫觴トス。又桐生ノ職工ニシテ巧ニ博多織

ヲ模造スルモノヲ生ジ、幾バクナラズシテ、其法八王子ニ傳ハレリト云フ。

## 第五節　維新以後ノ博多織業

### 第一欵　粗製濫造ノ時代

德川氏ノ封建制度破レテ、維新ノ大業成ルヤ、曩ニ黑田氏ガ博多織業ニ加ヘタル制限亦從テ廢滅ニ歸シ、當業者ノ數俄然トシテ增加シ、互ニ目前ノ小利ニ汲々トシ、漸ク粗製濫造ノ弊ヲ生ズルニ至レリ。是ヨリ先キ、嘉永四年ノ頃、石橋甚助ナルモノアリ、始メテ粗品ヲ織出シタリト雖モ、當時尙ホ藩主ノ制限法ノ存スルアリ、濫リニ之ヲ製スルコト能ハズ、僅ニ裏屋敷ヲ借入レテ「隱シ織」ヲナセルニ過ギザリキ。蓋シ、粗製ノ最モ盛ナリシ時代ヲ明治十年ヨリ同十三年ニ至ル頃トス。明治十年西南ノ役鎭定シ軍吏ノ東京、大阪、中國等ニ歸ルモノ、囊中ノ溫カナルヨリ、博多ニ來リテ帶地ノ類ヲ購求スルモノ甚ダ多ク、同十二年ニハ米價騰貴ノ爲ニ農民暴カニ富裕ニ赴キ、本品ノ需要一時ニ急激ノ增加ヲ來シ、品質ノ善惡ニ關セズ、毫モ市場ニ停滯スルコトナカリキ。斯ノ如クニシテ、本業甚ダ好景氣ヲ呈セシカバ、或ハ粗品ヲ僞リテ精良品ナリト號スルアリ、或ハ他地方產帶地ノ粗末ナルノモノヲ仕入レ是ニ貼付スルニ本場博多織ノ商標ヲ以テスルアリ。奸策到ラザルナク、瞞着ノ手段盡サヾルナカリキ。而モ其結果ヤ啻ニ此等不正ノ當業者ヲ困シメタルニ止マラズ、其餘波延イテ累ヲ一般ノ正業者ニ及ボシ、博多織ノ聲價是ニ於テ全ク地ヲ掃ヒ、販路殆ンド閉塞スルノ悲境ヲ呈スルニ至レリ。

### 第二欵　博多織會社

明治十三年三月、四五ノ當業者大ニ博多織ノ衰頹ヲ歎キ、其機運ヲ挽回センニハ先ツ同業者ノ一致團結ヲ計リ、嚴重ナル規則ヲ設ケテ製品ノ審査ヲナシ、其改良ヲ促ガスニ如カズトナシ、玆ニ博多織會社ノ成立ヲ見ルニ至レリ。同會社ハ專ラ博多織業者ヲ以テ其社員トシ各社員ヨリ金拾圓ヲ徵シテ保證金ニ充テ、其地區ヲ分テ七組トナシ、一組ニ二名ノ取締ヲ置ケリ。其始メ大ニ粗品ノ全廢ヲ主張スルモノアリシモ、反對スルモノアリテ行ハレサリシカドモ、精良ナル生絲ヲ撰ビ、之ヲ會社ノ事業トシテ當業者ニ販賣スルコト、ナセショリ、本品ノ改良ニ尠少ナラサル効果アリシト云フ。然ルニ、同會社ハ明治十七年十二月ニ至リテ解散セシト雖モ、其博多織業ヲシテ次第ニ回復ノ緒ニ就カシムルヲ得タルノ功、沒ス可カラザルモノアリ。

### 第三欵　博多織業ノ回復

明治十六年二月、第一回九州冲繩八縣聯合共進會ヲ長崎ニ開キテヨリ、當業者ハ愈〻粗製濫造ノ弊ヲ悟トリ、銳意品位ノ改良ヲ務ムルニ至レリ。明治十九年二月福岡縣廳ヨリ農商務省ニ請フテ、技師平賀義美氏ヲ聘シ、當業者ヲ會シテ染色ノ術ニ付キ聞ク所アラシム。當業者中特ニ氏ニ就キテ其學理ヲ研究スルモノアリ、或ハ自ラ八王子織物染色講習所ニ入リテ其法ヲ究ムルモノアリ。又他ノ一方ニ於テハ、其後屢〻開設セラレタル共進會、博覽會等ニ列シテ、諸種ノ織物ヲ研究スルモノアリ。或ハ他ノ機業地ニ就キ、其意匠、紋樣、織機等ヲ視察シテ歸ルモノアリ。之ニ加フルニ、明治十九年當業者ノ同業組合成リ、爾來二回其組織ヲ改メ、團結以テ事ニ當ルアリ。或ハ職工ノ組合ヲ設ケ、或ハ工業學校ノ設立ヲ促シ、汲々トシテ斯業ノ發達進步ヲ圖リシヨリ、遂ニ博多織ノ聲譽ヲシテ昔日ニ倍セシムルコトヲ得ルニ至レリ。唯其販路ノ比較的狹少ナルハ、

其製スル所ノ織物ノ種類少ク、彼ノ帶地、袴地等特種ノ目的ニ供セラルヽモノナルニ由ルノミ。若シ夫レ、同業組合ノ組織ヨリ、博多織ノ染色、織機、品位、賣買等ノ各項ニ至テハ、以下別ニ述ブル所アラントス。

## 第二章　博多織同業組合

明治十九年四月、縣達第四十一號ヲ以テ同業組合準則ノ發布アリ。機業者乃チ博多織同業組合ヲ組織シ、取締及ビ副取締ヲ選擧シ、斯業發達ノ爲ニ盡ス所アラシム。其後組合員ノ數百有餘名ニ達セシモ、組合ノ組織弛廢シテ振ハズ。

明治廿五年福岡縣廳、重要物産取締視則ヲ制定シ、主務省ノ認可ヲ經、同年十月ヨリ實施スルコトヽナセショリ、當業者ハ同年十二月一旦從前ノ組合ヲ解キ、更ニ右規則ニ基キ、福岡市及接近郡地所在ノ製造、仲買及販賣三業者ノ組合ヲ組織シ、定款ヲ定メ、十七名ノ評議員ヲ置キ尙其互選ヲ以テ、頭取一名、副頭取一名及ヒ取締五名ヲ擧ゲ、以テ事務ノ進行ヲ圖レリ。

時ノ縣知事安場保和氏博多織ノ品質ヲ一定センガ爲メ、組合事務所ニ於テ製品ヲ檢査シ、其保證ヲ以テ是ニ商標ヲ貼付スルノ案ヲ立テ、博多商業會議所ニ諮問ス。會議所更ニ組合ノ意見ヲ徵シ、其實行ヲ不可トナセショリ、議遂ニ行ハレズシテ止メリ。

今當業者ガ組合ノ保證ヲ以テ、商標ヲ製品ニ貼付スルコトヲ不可トセル理由ヲ擧グレバ左ノ如シ。

第一　製品ノ審査ニ付其分別ヲ立ツルコト困難ナリ。

第二　製品ヲ審査所ニ持參スルコト煩ハシ。

第三　製品ヲ審査所ニ於テ審査シ、商標ヲ貼付スルノ不可ナル所以ナリトス。然ルニ若シ之ヲ營業者各自ニ貼付セシムルコトヽセバ、次ノ故障ヲ生ズ。

第一　製品ノ種類品位ニ從ヒテ商標ヲ各種ニ區分セザルベカラズ。

第二　右ノ如ク商標ヲ各種ニ分テ貼付スルモノトセバ、低價ニシテ需要多キ下等品ニ上等品ノ商標ヲ付シ、反ツテ粗製ノ弊ヲ助長ス。

尙ホ、博多織會社ノ頃、明治十三年ヨリ凡ソ三年間、組合商標ノ貼付ヲ實行シ數多ノ困難ニ遭遇シ、十九年同業組合ヲ組織シテヨリ、種々其方法ヲ改メテ履行セシモ、反ツテ弊害ニ堪ヘザルコトアリシト云フ。

組合ノ主張スル所ニ據レバ、總テノ製品ニ製造者ノ住所姓名ヲ記載セル商標ヲ、各自貼付セシムルコト、セバ、當業者ハ自ラ其名譽ヲ重ンジ、競フテ製品ノ改良ニ從事シ、外觀ヲ衒フノ弊ヲ絕ツヲ得ベシト云フニ在リキ。而シテ此方法ハ現今採用セラルヽ所ニシテ、彼ノ外部ノ制裁ヲ受ケ已ムヲ得ズシテ行フモノト異ナリ、能ク其功ヲ奏シツヽアリト云フ(第八章參照)

明治三十年、重要輸出品同業組合法ノ發布アルヤ、組合ノ組織ハ更ニ一變スルニ至レリ。即チ從前ニ於テハ、製造、仲買及ビ販賣三業者ノ組合ナリシガ、是ヨリシテ織機業者、染色業者、販賣業者及撚絲業者ノ四者ヲ以テ組織スルニ至レルコト是ナリ。蓋シ、現今當業者ノ團結ハ割合ニ鞏固ナルモノヽ如シ。

而シテ最近ノ調査(明治三十三年)ニ據レバ、組合當業者ノ數ハ二百五十名ナリ。

倘ホ其組合ノ組織ニ至テハ、左ニ掲クル所ノ定欵ニヨリ明カナル可シ。

# 博多織同業組合定欵

## 第一章　總　則

第一條　本組合ハ明治三十年法律第四十七號重要輸出品同業組合法ニ據リ地區內同業者五分ノ四以上ノ同意ヲ得テ組織ス

第二條　本組合ハ博多織ノ織機業者染色業者製造品販賣業者撚絲業者ヲ以テ組織シ其組合區域ハ福岡市及ヒ筑紫郡ノ內警固村住吉村千代村堅粕村トス

第三條　本組合ヲ博多織同業組合ト稱ス

第四條　本組合事務所ハ福岡市博多今熊町十一番地ニ設置ス

第五條　本組合ハ組合員一致協同シテ營業上ノ弊害ヲ矯正シ信用ヲ保持スルヲ以テ目的トス

## 第二章　業務執行

第六條　本組合ハ其目的ヲ達センタメ左ノ業務ヲ施行ス

一　原料ヲ精撰スルコト

二　色染ハ堅牢ニシテ褪色又ハ變色ナキ樣精良ナラシムコト

三　織方ハ精巧ナラシムルコト

四　職工徒弟ノ養成取締ヲナスコト

五　他地方ノ製產地ノ實況ヲ視察シ改良進步ヲ圖ルコト

六　信用擔保ノタメ製品ニ標章ヲ貼附スルコト

第七條　本組合ハ組合員ノ使傭スル職工ヘ職工章札ヲ交附スルモノトス

第八條　組合員ニシテ職工ヲ雇入レントスルトキハ其住所姓名履歷ヲ組合事務所ニ屆出テ職工章札ノ下附ヲ請フヘシ

但解雇シタルトキハ之ヲ返納スヘシ

第九條　組合員ニ於テ職工ヲ雇入又ハ解雇シタルトキハ十日以內必ス組合事務所ヘ屆出ツヘシ

第十條　組合員ニ於テ其雇入レタル職工及ヒ養成スル所ノ徒弟ニシテ若シ脫走シ又ハ不都合ノ所爲アリト認メ之ヲ解雇又ハ暇ヲ出シタルトキハ十日以內組合事務所ヘ屆出ツヘシ

但シ組合事務所ハ組合員一般ヘ其旨通知スヘシ

第十一條　組合員ハ職工徒弟ヲ雇入又ハ呼入ル、ニ際シ先主アリタルトキハ其先主ノ承諾ヲ得テ雇入呼入ヲナスヘシ

第十二條　本組合ノ職工ニシテ殊ニ技術ニ熟達シ或ハ永年就職精勤シタル者ヘハ組合ノ名稱ヲ以テ其功勞ヲ表彰スルコトアルヘシ

第十三條　組合員ハ徒弟ノ年期ヲ約定シタルトキハ其住所氏名年齡及ヒ年期等ヲ詳記シ十日以內ニ組合事務所ヘ屆出ツヘシ

第十四條　本組合ノ徒弟其年期ヲ了リタルモノハ試驗ヲ行ヒ其成績ニ仍リ組合ノ名稱ヲ以テ卒業證書ヲ授與スルモノトス

第十五條　本組合ハ代表員會ノ決議ヲ以テ組合員及ヒ職工ニシテ其技術熟練精功者ヲ撰擢シ技術ノ傳習又ハ各製產地ヲ視察セシムルコトアルヘシ

第十六條　本組合ハ其製品ト價格トノ一致ヲ保證スル爲等級ヲ分チタル標章ヲ製シ染色人製造人又ハ販賣人ヲシテ小形織物類ヲ除クノ外總テ其製造品每ニ之ヲ貼用セシムルモノトス

但シ其製品ノ等級別及ヒ標章樣式小形織物ノ種類ハ細則ニ於テ之ヲ定ム

第十七條　組合內外ヲ論セス標章ハ賣買貸借分與スルコトヲ得ス

第十八條　組合員ハ其製品販賣交付ニ際シ規定ノ標章ヲ貼付スヘシ

## 第三章　加入及ヒ退去ニ關スル規程

第十九條　組合ニ加入セントスルモノハ每區評議員ヲ經テ組合事務所ヘ申込ムヘシ事務所ハ組合人名原簿ヘ調印セシメ組合員章札ヲ交付スルモノトス組合員ハ之ヲ見易キ處ニ掲出スヘシ

第二十條　組合員ハ轉宅改氏名代替又ハ廢業シタルトキハ十日以內必ス組合事務所ヘ屆出ツヘシ

## 第四章　役員資格權限及其選擧

第二十一條　本組合ニ左ノ役員及ヒ事務員ヲ置ク

組長　一名

副組長　一名

評議員　五名

以上役員

書記　貳名

以上事務員

第廿二條　本組合役員ハ現在役員又ハ代表員ノ互選ヲ以テ之ヲ定メ農商務大臣ノ認可ヲ得テ就任スルモノトス但任期ハ代表員ニ同シ

第廿三條　左ニ掲クルモノハ本組合役員代表員トナルコトヲ得サルモノトス

(一)　地區內ニ於テ組合ヲ組織スル營業ニ從事シ一箇年ヲ經サル者

(二)　重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレ又ハ商業及ヒ農工ノ業ヲ妨害スル罪財產ニ對スル罪風俗ヲ害スル罪及信用ヲ害スル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレ滿期又ハ赦免後二个年ヲ經サル者

(三)　公權ヲ剝奪セラレタル者又ハ其停止中ノ者

(四)　復權セサル破產者及家資分散者

(五)　組合定款ニ背キ違約處分ヲ受タ一个年ヲ經過セサル者

第廿四條　組長ハ組合一般ノ事務ヲ司リ組合ヲ代表シ會議ノ議決ヲ執行シ其他左ニ掲クル權限ヲ行フヘシ

一　會議ノ議案ヲ調製シ組合總會代表員會及役員會ヲ招集スルコト

二　組合事業發達進歩ヲ企圖スルコト

三　評議員以下ノ勤惰ヲ監督スルコト

四　事務所書記以下ヲ任免黜陟スルコト

五　組合員章札及職工章札ヲ交付スルコト

六　組合信用擔保ノ標章ヲ調製スルコト

七　組合事務ニ關シ官廳及ヒ其他ニ往復スル文書ニ署名スルコト

八　組合員ヨリ出ス所ノ諸願伺屆ニ加印スルコト

九　組合經費ノ收入支出ヲ管掌スルコト

十　違約處分ヲ執行スルコト

十一　組合事務ニ關スル法令ヲ保管シ及諸張簿ヲ調製スルコト

十二　臨時監査人ヲ設ケ標章貼用ノ有無ヲ調査セシメ職工徒弟ノ出入ヲ掌理セシムルコト

十三　織染業捻絲業ノ改良進歩ヲ奬勵スルコト

第廿五條　副組長ハ組長ノ職務ヲ補助シ組長事故アルトキハ之カ代理ヲ爲スベシ

第廿六條　評議員ハ組長ト協議シテ左ノ事務ヲ管掌スヘシ

一　議案調製ニ參與スルコト

二　組合員ノ機場及販賣店ヲ時々巡視シテ標章貼用ノ有無其當否ヲ檢査スルコト



三　違約者ヲ組長ヘ申告スルコト

四　其他組長ノ協議ニ依リ組合事務ヲ補助スルコト

第廿七條　書記ハ組長ノ指揮ヲ受ケ庶務會計ノ事務ヲ處辨スルモノトス

第廿八條　代表員ハ其選擧區ヲ五區ニ分ケ每區三名幷ニ豫備員二名ヲ選出スルモノトス其選擧區域ヲ定ムルモノ左ノ如シ

（中　略）

第二十九條　本組合代表員ハ其任期ヲ二个年トシ初期ノ半數ハ特ニ一个年ヲ以テ任期トシ漸次半數ヲ改選ス

欠員アリタルトキ補欠就任シタルモノハ前任者ノ任期ヲ繼クモノトス

但前任者ヲ再選スルコトヲ得

## 第五章　會議ニ關スル規程

第三十條　會議ヲ分ツテ組合總會定期會臨時會役員會ノ四種トス

第三十一條　定期會ハ組合事務ノ報告經費ノ豫算賦課徵收ノ方法議決ノ爲メ每年十月ニ代表員會ヲ開クモノトス

第三十二條　臨時會ハ臨時緊急ノ要件アルニ當リ組長ノ意見若シクハ代表員過半數ノ請求ニヨリ開會スルコトヲ得

第三十三條　役員會ハ組長ノ意見又ハ役員半數以上ノ請求ニヨリ開會スルコトヲ得

第三十四條　各會議ノ議長ハ組長ヲ以テシ組長事故アルトキハ副組長之ニ代ル

但組長副組長共事故アルトキハ臨時之ヲ選定ス

第三十五條　議事ハ會員ノ過半數出席スルニアラサレハ決議スルコトヲ得ス同一ノ議件ニシテ再會ニ至リ猶ホ過半數ニ至ラサルトキハ出席員ニテ決議スルコトヲ得

但シ至急ヲ要スル場合ハ他行者ヲ除キ現在者ノ半數以上出席アリタルトキハ開會スルコトヲ得

第三十六條　本組合會議ノ採決方法ハ出席會員起立ノ過半數ヲ以テ定ム可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

但シ定款變更組合解散ニ關スル決議ニ付テハ本條ヲ適用セス

第三十七條　議事中會員出席又ハ退席セントスルトキハ議長ノ許可ヲ受クヘシ

第三十八條　組長ハ各會議ノ決議ニ於テ不當ト認メタルトキハ再議ニ附スルコトヲ得

第三十九條　組合總會ハ本組合定款變更又ハ組合解散ニ關スル事件及組長評議員全員ニ於テ重要ノ事項ト認ムル事ヲ審議スルモノトス

## 第六章　會計

第四十條　本組合ノ會計年度ハ毎年一月一日ニ起リ十二月末日ヲ以テ終ルモノトス

第四十一條　本組合ノ經費ハ戸數割及標章料ヲ以テ之レニ充ツ其收入及支出ノ豫算ハ代表員會ノ決議ヲ經農商務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ定ムヘシ

但シ分工場及ヒ支店ト雖モ本條經費ヲ負擔スルモノトス

第四十二條　戸數割二圓五十錢以内標章料壹錢五厘内トシ毎年度ノ豫算ヲ以テ之ヲ定ム

但シ小形織物類專業者ニ對シテハ組合經費ヲ補フ爲メ特ニ機數ヲ以テ標準トシ壹機毎ニ壹个年ニ付金貳圓以内徴收スルモノトス

第四十三條　本組合ノ經費ハ組長之ヲ支拂ヒ年度後之ヲ決算シ代表員會ノ審査ヲ經テ農商務大臣ニ報告スルモノトス

第四十四條　本組合經費ノ收入及支出ニ屬スル帳簿ハ何時タリトモ代表員ハ之ヲ檢閲スルコトヲ得

第四十五條　本組合ニ於テハ左ノ手數料ヲ徴收スヘシ

一　組合員章札手數料　金五拾錢

一　職工章札手數料　金五錢

但雇主ヨリ徴收ス

第四十六條　手數料及違約金ハ組合積立金トシ別途ノ整理ニ由リ銀行又ハ其他確實ナル方法ニヨリ預ケ入レ利殖スルモノトス

第四十七條　積立金額及其利金ハ毎年定期會ニ報告スヘシ

第四十八條　積立金ハ壹千圓ニ滿ルマテハ之ヲ消費セサルモノトシ壹千圓ニ滿チタルトキハ其利子ハ代表員會ノ決議ニヨリ組合必用ノ經費ニ支出スルコトヲ得

## 第七章　違約處分法

第四十九條　違約處分會ハ組長副組長及評議員一名代表員二名ヲ以テ組織ス

評議員代表員中ヨリ參列スヘキモノハ豫メ抽籤ヲ以テ其順序ヲ定メ毎月交代スルモノトス

第五十條　本組合定款第八條第九條第十條第十一條第十三條第十六條第十七條第十八條第二十條第五十六條ニ違背シタルトキハ違約處分會ノ決議ヲ以テ左ノ數項ニヨリ處分スヘシ

但事情最重ナルモノハ數項ヲ併行スルコトアルヘシ

第一項　金貳圓以上參拾圓以下ノ違約金ヲ徵收スルコト

第二項　新聞紙ニ其違約ノ要領ヲ廣告スルコト

第三項　他ノ關係アル組合及商店ニ通告スルコト

第五十一條　前條第二項ノ新聞廣告料ハ該違犯者ニ於テ負擔スヘキモノトス

第五十二條　違約金及新聞廣告料ハ處分通知ノ日ヨリ十日以內ニ組合事務所ヘ完納スヘシ

## 第八章　定款變更及解散ニ關スル規程

第五十三條　本組合定款ニ變更ヲ要スルトキハ組合總員參分ノ二以上ノ同意ヲ得農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五十四條　本組合ヲ解散セントスルトキハ組合總員五分ノ四以上ノ同意ヲ以テ決議スルモノトス

## 第九章　附則

第五十五條　本組合定款ノ細則ハ代表員會ノ決議ヲ以テ之ヲ定メ農商務大臣ニ屆出ツルモノトス

第五十六條　明治二十年九州沖繩八縣聯合共進會ニ於テ筑前博多織ニ對シ授與セラレタル一等賞ハ一己人ノ製品ニ對シ授與セラレタルモノニアラサレハ組合員ト雖モ自家ノ商標及ヒ商號廣告等ニ一等ノ文字ヲ記入スルコトヲ得ス

## 第三章　福岡縣工業學校

福岡縣工業學校ハ、福岡市東湊町ニ在リ、明治廿九年四月ノ設立ニ係リ、後三十二年四月更ニ久留米ト小倉トニ分校ヲ置ク。學科ヲ染織、建築及ヒ機械ノ三科ニ分チ、修學年限ヲ三年トシ、生徒ヲシテ學理ト實地トヲ兼ヲ修メシメンコトヲ期ス。生徒ノ數現ニ福岡本校ニ二百九人、久留米分校ニ四十六人、小倉分校ニ百人合計三百五十五人、內染織科ヲ修ムルモノ本校ニ二十七人、久留米分校ニ四十六人ナリトス。而シテ福岡本校染織科ニ於テハ、三棟ノ實習教場ヲ有シ、其一棟ハ染色場ニシテ、他ノ二棟ニハ新式ノ織機ヲ備付ケタ

リ。生徒ノ製作品多シト雖モ皆見ルニ足ルモノアリト云フ、殊ニ三十四年卒業染織科生徒ガ、福岡縣教育會ノ依囑ヲ受ケ製作セル　皇太子殿下ヘノ獻上品御テーブル掛ノ如キ、意匠織方共ニ賞スベシ。

同校ノ設立日尚ホ淺キヲ以テ、卒業生ヲ出スコト、福岡本校ニテ三回八十七人アリシニ過ギズ。內染織科卒業僅カニ十九人ノミ。然レドモ、其七名ハ現ニ博多織業ニ從事シ、其他尚ホ研究ヲ重ヌルモノアリ。校運亦盛ナルヲ以テ、多數ノ卒業生ヲ出シ、博多織業ニ貢獻スル所アルニ至ル蓋シ遠キニアラサル可シ。

## 第四章　博多織ノ原料

今ノ博多織ヲ尚ホ博多唐絲織ト稱セシ天明寛政ノ頃マテハ、專ラ支那ヨリ輸入シ最モ美質ノ細絲ヲ用ヒシガ、文化文政ノ頃ヨリ此細絲ノ手數ヲ要スルト、其稍〻高價ナルヲ厭ヒ、丹波、近江、美濃等ニ產スル生絲ヲ用フルニ至レリ。

現時ニ於テハ、重ニ地廻絲及ビ九州各地產ノ優等機械絲ヲ使用ス。然レドモ、附近ノ生絲ハ、其品質十分ナラザルガ故ニ、京阪地方ヲ經テ信州、近江等ノ生絲ヲモ使用セリ。而シテ十數年前マデハ、江州產ノ絲ト雖モ多ク其集メ物ヲ消費シ、總テ太キ經絲ヲ用ヒシガ、筏ノ改良ト共ニ、細キ經絲ヲ使用スルニ至レリト云フ。

## 第五章　染色

博多織從前ノ染色法ハ、至極簡單ニシテ、其染料トシテ茜根、紫根、蘇坊等ノ植物ヲ使用シ、維新前外國ヨリ人爲染料ノ輸入セラレザル頃、蘇坊ヲ以テ赤色ヲ染ムルニハ、先ヅ蘇坊一斤ニ付胡椒五匁及玉蜀黍ノ皮二十匁ヲ混ゼテ釜ニ入レテ能ク煮出シ、其煎汁ヲ桶ニ汲ミ取リ翌日マデ其儘放置シ、更ニ染釜ニ蘇坊及黃木ノ煎汁ニ明礬ヲ混ゼ、染メント欲スル糸ヲ繰入レ漸ク沸騰セシメ、染メシハ干シ、干シテ染ムルコト數回ニシテ欲スル所ノ色ヲ得レバ、最後ニ椿ノ木灰汁ニ漬ケ置キ以テ色澤ヲ一層鮮明ナラシメタリト云フ。

外國染料ノ輸入アリテヨリ、博多織ノ色相、紋樣等漸ク複雜ニ至リシモ、其染色法未ダ完全ナラザルモノアリシヲ以テ、當業者ハ其改良ヲ企テ、縣廳ガ明治十九年ニ平賀技師ヲ招キテヨリ、染色術ノ研究益々盛ニシテ、實地染色法ナル簡便ノ書ヲ著シ研究ノ結果ヲ公ニシ改良ノ資トナセルモノアリ。明治二十三年ノ頃ニハ八王子織物染色講習所ニ入學セルモノ數名ニ及ビ、始メハ筑前織染研究會ナルモノ起リ、後ニ福岡織染研究所出ヲタリ、不幸ニシテ共ニ廢セラレタリト雖モ、以テ當時當業者ガ染色ノ改良ニ熱心ナリシコトヲ察スベシ。

而シテ現時使用スル所ノ染料ヲ擧グレニ從來ノ植物染料トシテハ、尚ホ五倍子、楊梅皮、蘇木、靖安、黃木丹柄等ヲ用ヒ、外國植物染料トシテハ、「ログウード」、「スーマック」、「ケレップ」、「ブロンス」、「カテキウ」、「フスチック」ノ類ヲ使用シ、人造染料トシテハ、「アンリン」屬ノ酸性染料ヲ用フ、就中「アリザリン」屬ノ使用最モ多シ。而シテ之ニ要スル媒染劑及ビ藥品ハ硝酸鐵ヲ重ナリトシ、之ニ亞グモノヲ錯酸「クロシユーム」錯酸礬土、鹽化「クロシューム」鹽酸、硫酸、重クロル酸加里、「アンモニア」、明礬、錯酸、蓬砂、錯酸鉛、黃色血滴鹽、重炭酸曹達、硫酸鉄、「リスリン」、鹽化錫、「マルセール」石鹼等ナリ。

博多織ノ業ハ、從來各家ニテ自ラ原料ヲ撚リ、之ヲ染メ、之ヲ織ル有樣ナリシガ、當業者ハ漸次分業ヲナシテ各自研究ヲ專ラニスルノ利益ヲ認メ、現ニ染色業ノ如キハ殆ンド全ク分業トナリ、他ノ注文ヲモ引受クルニ至レリ。又撚絲業モ漸ク分業トナルノ傾向アリトス。

## 第六章　織機

博多織ノ織機ハ古來短機ノミヲ用ヒシガ、近時大ニ改良セラレ新式ノ機械ヲ使用スルモノ多シ、明治八年ノ頃、京都ニ至リテ織法ヲ實修シ、繰絲器械及ビ機臺(長機)ヲ購入シテ歸ルモノアリシガ、當時使用ノ原料絲ハ其總大ニシテ糸質ノ種類多ク、繰絲器械ノ使用ニ熟練セズ、且ツ太絲ヲ用ヒシ爲メ、其絲質繰絲器械ニ適セザリシヨリ之ヲ使用スルモノナカリキ。

「シヤツカード」、「ドビー」等ノ新機械ガ本業ニ使用セラルヽニ至リシハ、明治十九年及ビ二十年ノ頃ニ始マル。此當時マデハ、生絲ヲ繰ルニ絡梁(タヽリ)ヲ用ヒショリ、仕事捗取ラズシテ、甚シク不便ヲ感シ、紋樣(ウケ織)ヲ織出スニモ、織機一臺ニ二名ノ職工ヲ要シタリシガ、明治十九年農商務省技師平賀氏説クニ絲繰法ノ幼稚ナルコト、太絲使用ノ不利ナルコト、筬ノ「ヨミ」ノ荒キコト、織機ノ不完全ナルコト等ヲ以テシ、桐生、西陣、八王子、足利等ノ諸地方ニ於ケル機業ノ現況ヲ語レルヨリ、當業者中大ニ悟トルモノアリ、自ラ他地方ノ機業ヲ視察シ、其織法ヲ研究シ、或ハ繰絲器械及び撚絲器械ヲ京都ニ買ヒ、或ハ筬ノ細微ナル「ヨミ」ヲ八王子ニ求メ、原料ヲ撰ビ、染色法ヲ改良シ、「シヤツカード」「ドビー」等ノ新式機械ヲモ京都ヨリ購入シテ博多織ニ試ミシニ、其簡便ニシテ紋樣ヲ織出スニハ職工一名ヲ省キ得ルノミナラズ、遙ニ精巧ナル紋樣ヲ織出スヲ得ルヨリ、漸次一般使用セラルヽニ至レリ。

元來博多帶地ニハ短機ヲ使用シ、其地質ノ硬キヲ特色トナセシカ、機臺ノ長短ハ大ニ經絲ノ伸縮ニ關スルモノニシテ、製品ノ地質ハ、長機ヲ用フルトキハ軟カナレドモ、短機ヲ用フルトキハ硬キモノトス。故ニ紋織及ビ袴地ノ如キハ長機ヲ用フルコト利益ナレドモ、重量大ナル帶地ノ如キ厚地ハ、之ヲ長機ニテ織ルハ不可ナリト云フ。サレバ帶地ヲ織ルニハ、尙ホ舊來ノ織機即チ短機ヲ用フルモノ多シ。

明治三十三年調査ノ統計ニ據レバ機數六百〇五臺ナリ。

## 第七章　博多織ノ種類

福岡市ノ織屋ニテ製出セラル、織物ノ種類ヲ擧グレバ左ノ如シ

(一)　帶地

古來博多帶トシテ有名ナルモノニシテ、其產出價額ハ博多織全額ノ凡ソ八割ヲ占メ、博多織ヲ云ヘバ直チニ其帶地ヲ聯想セシムル程ナリ。帶地ハ男帶地(巾五寸七分長サ一丈一尺內外)、女廣巾帶地(巾一尺八寸長サ一丈一尺內外)、女片巾帶地ヲ重ナリトシ、此他子供帶、袋織帶地等アリ。

(二)　袴地及ヒ着尺物(反物)

此二品ハ帶地ニ亞ギテ主要ナルモノニシテ、其產額ノ全額ニ對スル比例袴地ハ凡ソ八分着尺地ハ凡ソ七分ナリ。

(三)　洋服地、襟飾、手巾

近時製織ヲ始メタルモノニシテ、先年米國市俄古萬國博覽會ニハ白ノ「チヨツキ」地ヲ出品シ高評ヲ博セリト云フ。然レドモ概シテ洋服地トシテハ、價格割合ニ高キニ過グルヲ以テ其製織未ダ多カラズ。

（四）室内裝飾品

是亦近時ノ創織ニ係リ、其重ナルモノハ卓子掛、窓掛、椅子張地、其他屏風地、衝立地等ナリ。

（五）雜品

帛紗地、煙草入、名刺入、銅貨入、楊子入等。

以上ヲ博多織ノ重ナル種類トス。而シテ更ニ、織方ニヨリ名稱ヲ異ニセルモノヲ擧グレバ左ノ如シ。

（一）三枚囊織

煙草入、紙入等ニシテ、三枚重ネノ普通ノ囊物ト同一ノ形狀ヲ有シ、其異ナル所ハ、右ノ三枚ガ直チニ機ヨリ織リ出サレタルモノニシテ、毫モ縫目ヲ有セザルニ在リ。明治十八年九月松居工造氏ノ發明ニ係リ、現ニ松居織工場ノ專賣特許品タリ。

（二）博多耐久織

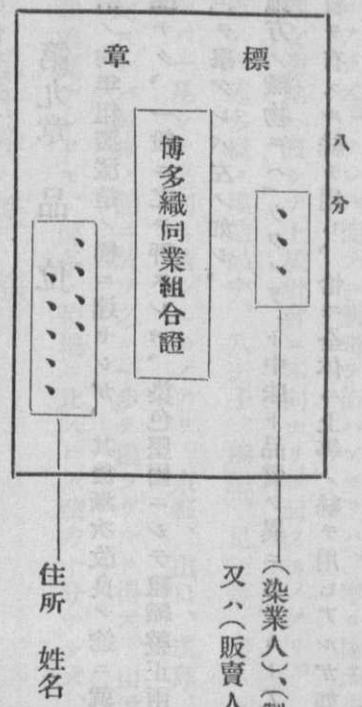
本品ハ帶地ガ其兩端或ハ中央ノ折目ヨリ擦リ切ルヽコトヲ防ガントテ、中西金次郎氏ノ發明セル所ニシテ、其方法ハ摩擦ヲ緩ヤカナラシメ廢棄ノ豫備タラシメンガ爲メニ、帶地ノ兩端ト中央トニ更ニ一重ヲ添織スルニ在リ。故ニ其帶地ノ一面ガ擦リ切レタルトキハ、更ニ他ノ面ヲ出サバ、裏面ノ一重ハ豫備トナリテ其用ヲナシ、一見恰モ新調セルモノヽ如シト云フ。

## 第八章　製品ノ等級及ビ標章

博多織ノ等級ハ之ヲ分テ四トス、一等、二等、三等、四等是ナリ。

製品ノ品位ヲ保證センガ爲メ、之ニ貼付スベキ一定ノ標章ヲ製シ、之ヲ組合事務所ヨリ販賣シ、染色人、製造人及ビ販賣人ヲシテ必ズ各製品ノ上ニ貼付セシム。

標章ノ雛形左ノ如シ




標章ノ色ハ染色及製造共ニ同一ナリ、即チ左ノ如シ、

一　等　赤色
二　等　鼠色
三　等　紫色

四　等　　青　色

販賣ニハ等級ナキヲ以テ、唯一樣ノ樺色標章ヲ用フ。

小形織物ニアリテハ、之ヲ箇々ニ分タズシテ多クハ長ク連續セルモノヲ販賣スルモノナルガ故ニ、帶地等ノ如ク一個毎ニ標章ヲ貼付スルコト甚ダ煩ハシ。故ヲ以テ明治三十四年八月組合定款第十六條ヲ改正シ、小形織物ニハ其貼付ヲ要セザルコト、ナセリ。

## 第九章　品　位

博多織ハ明治ノ初年粗製濫造ノ極ニ達セシガ、其後漸次改良ノ途ニ就キ、現時ニアリテハ「ス、キ」、「糊入」「タ、キ」等ノ弊ナク、一般ニ之ヲ評スレバ、染色堅固ニシテ組織整正兩耳ヨク揃ヒ品質佳良ナルガ如シ。

今本品ノ特色ヲ擧グレバ左ノ如シ、

第一、他地方ノ織物ニハ「ウワノリ」ト中味ト品質ヲ異ニスルコトアリ。即チ、織物ノ端織(ハシオリ)ニノミ特ニ上等ノ品質ヲ有スル絲ヲ用ヒ、恰モ全体ニ上等ノ絲ヲ用ヒアルガ如クニ見セ掛クルモノナリ。然レドモ當地ノ織物ニハ斯ノ如キ弊ナク、「ウハノリ」、中味共ニ同一ノ品質ヲ有ス。

第二、帶地ノ如キハ、短機ヲ用ヒ且ツ男工ノ手ニヨリテ織ラル、ガ故ニ、地質ヨク締マリ甚ダ堅クシテ丈夫ナリ。彼ノ桐生、八王子、京都等ノ諸地方ニテハ長機ヲ用ヒ、女工ノ手ニ依リテ織ラル、ガ故ニ地質本場博多織ニ比シ柔軟ナリトス。

第三、綿柄概シテ「ウミ」ニシテ古風ヲ存ス。其趣味ノ愛スベキモノアルノ點ニ至リテハ、關東產ノ金子及ブベカラザル所ナリトス。

其意匠ノ點ニ至リテハ見ルベキモノ少ク、紋樣縞柄依然トシテ舊態ヲ改メズ「博多織ヲ買フモノハ絲ヲ目方ニテ買フト一般ナリ」ナドノ批評アル程ナリ。然レドモ、製品ノ重ナルモノハ帶地ニシテ、目立チテ珍ラシキ紋樣ヲ案出シ能ハザルコト反ツテ至當ニシテ、往々風通織ナドノ工夫アレドモ之ヲ男帶地トナスニハ實適當ナル地合ニアラズ。サレバ徒ラニ新奇ヲ衒ハンヨリハ、寧ロ博多本來ノ特色ヲ失ハザランコト肝要ナラハン。又博多織女帶地ハ概シテ上流社會ニ不向ナリト云フモノアリ。

近來各地ニ產スル博多織ノ模造品中、八王子、桐生、足利等ニ產スルモノハ、其製織甚ダ巧ニシテ、熟練セルモノニ非レバ一見シテ鑑別ニ苦シムモノアリ。京都、山口、廣島、兵庫等ノ製品ハ價格低廉ナリト雖モ本場博多織ニ比スレバ趣味ノ點ニ於テ之ニ一歩ヲ讓ラザルヲ得ズ。山形、米澤等ノ帶地ハ、經絲細ク組織密ナルヲ以テ外觀美麗ナレドモ、博多ノ帶地ニ比スレバ織方十分ナラズ、染色モ亦不完全ナリ。

## 第十章　產　額

博多織ハ年々產出額ヲ增加スト雖モ、其增加ノ度比較的ニ大ナラズ、是レ蓋シ、帶地ヲ以テ重ナル製品トナシ、其需要ノ高年ニ由リテ大差ナキニ因ルモノ歟。今明治二十五年以來年々ノ產額ヲ示セバ左ノ如シ

| 年次 | 數量 | 同增加比例 | 價額 | 同增加比例 |
|---|---|---|---|---|
| 明治二十五年 | 一一八、五三五貫 | 一〇〇 | 二三六、七一九・六〇圓 | 一〇〇 |
| 同　二十六年 | 一〇六、六八四 | 九〇 | 二二三、一八〇・八四 | 九四 |

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 同 | 二十七年 | 一一九、九九八 | 一〇一 | 三五六、一〇四・三五 | 一五〇 |
| 同 | 二十八年 | 一二七、八七四 | 一〇八 | 五三三、二七六・六三 | 二二六 |
| 同 | 二十九年 | 九八、八八六 | 八三 | 四二三、四一六・六六 | 一七八 |
| 同 | 三十年 | 一四六、八五八 | 一二四 | 六八二、五一四・九七 | 二八八 |
| 同 | 三十一年 | 一五〇、七三五 | 一二七 | 七六一、一七六・七〇 | 三二二 |
| 同 | 三十二年 | 一三三、六一一 | 一一三 | 七六二、五三九・七五 | 三二二 |
| 同 | 三十三年 | 一四七、〇八七 | 一二五 | 八五二、〇五二・〇〇 | 三六〇 |

更ニ各品種ニ付キ、明治三十三年ノ產額ヲ擧ゲ、之ヲ五年前ノ產額ニ比較スレバ左ノ如シ。

| 品目 | 明治三十三年 數量 | 明治三十三年 價格 | 明治二十八年 數量 | 明治二十八年 價格 |
|---|---|---|---|---|
| 男帶地 | 九五、五九〇疋 | 五七三、五四〇疋 | 八一、八四〇疋 | 四一六、〇八八疋 |
| 女帶地 | 六、一一五 | 一一七、一三五 | 二、九一四 | 四一、一一八 |
| 袴地 | 三、九四七 | 六七、一〇〇 | 一、五〇一 | 一八、三七二 |
| 着尺地 | 三、七六五 | 五六、四七五 | 一、五八二 | 二一、七九〇 |
| 襟地 | 五、六〇〇 | 二、五二〇 | 五、四二九 | 二、〇三五 |
| 袋織小間物 | 二五、六九〇 | 一〇、二七六 | 二七、九八二 | 一四、二四六 |
| 前垂地 | 二五〇 | 五〇〇 | 一五〇 | 二二五 |
| ハンカチーフ | 二、五〇〇 | 一、三七五 | 七九〇 | 三九五 |
| 帛紗地 | 五〇〇 | 一、七五〇 | 一八三 | 七四五 |
| 短胴服地 | 一七〇 | 五六一 | 二三一 | 九九三 |
| 其他 | 二、九六〇 | 二〇、八二〇 | 五、二八二 | 一七、二五九 |
| 合計 | 一四七、〇八七 | 八五二、〇五二 | 一二七、八七四 | 五三三、二七六 |

# 第十一章　賣買

## 第一節　販路及販賣ノ方法

博多織ノ需要地ハ關西諸地方及ビ東京ニシテ、殊ニ多ク仕向ケラルヽヲ大阪トシ、之ニ亞ゲテ京都トス。今各需要地ニ於ケル其割合ヲ示セハ凡ソ左ノ如シ。

製品十分ノ四　大阪、京都及東京

同　十分ノ三　中國及四國諸地方

其他　九州

博多織ノ取引ハ至テ簡單ニシテ、織屋ガ本品ヲ製織スルニハ注文ニヨリ、仲買ノ手ヲ經テ需要地ニ送ラルヽモノアリ。織屋ト仲買トノ關係ハ、主トシテ現金取引ニヨルモノナリ。而シテ中流以上ノ製織家ニアリテハ、自カラ他地方ニ得意先ヲ有シ、仲買ノ手ヲ經ズシテ直接ニ、其取引ヲ行フモノ多シ。而シテ或モノハ大阪及ビ京都等ノ地ニ分店若シクハ出張所ヲ構ヘ、之ニ商品ヲ送附シ、以テ專ラ其販賣ニ從事セシムルモノアリ。而シテ此等ノ分店及取引先トノ間ノ計算ハ、年二回ニ締切ルヲ通例トス。博多ヨリ此等ノ諸店ニ送荷ヲナスニ當リテハ、荷爲替ヲ取組ムガ如キコトナシ。抑モ荷爲替ノ法タル、資金ノ運轉ヲ圓滑ナラシムル上ニ於テ効力大ナルモノニシテ、各地ノ商人ハ好ンデ此便法ニ據ラザルハナキニ、獨リ當地ノ機織業者ガ、敢テ之ヲ利

用スルコトナキハ、ソモ如何ナル理由ニ基ヅクカ。仲買ヲ經テ商品ヲ販賣スルトキ、換言スレバ仲買ガ全ク自己ノ計算ニテ賣買スルトキハ、主トシテ現金ヲ以テ勘定ヲ濟スモノナルガ故、此場合ニ於テハ、敢テ荷爲替ノ必要ナキヤ明ナリ。然ルニ此他ノ場合ニ於テハ、漫然其賣捌濟ヲ待ツガ如キハ、迂ノ極ト云ハザルヲ得ズ。蓋シ織物業ハ元來資金ノ多額ヲ要スルモノナレバ、假令充分ノ資本ヲ有スルモ、尙之ヲ有効ニ使用スルノ道ヲ講ズルハ、必要ノコトナリ、其金利ヲ失ヒ、且資金ノ運轉ヲ迅速ナラシメザル如キハ、余輩ガ當業者ノ爲メニ取ラザル所ニシテ、當業者ト銀行者トノ關係ヲ密接ナラシムルハ、博多機業ノ發達ヲ助クル一方法トシテ、切ニ之ヲ希望スルモノナリ。

## 第二節　賣買單位及價格

### 第一款　賣買單位

博多織ノ賣買ニハ、總テ重量ニヨリ其價格ヲ稱ス。但シ小物ニアリテハ、箇々ニ付之ヲ計算スルコト勿論ナリ。

### 第二款　價格

博多織ノ價格ハ凡ソ一定シ、其相場ノ變動ハ、割合ニ小ナルガ如シ。今其相場表ヲ掲ゲテ、以テ近數年間ニ於ケル趨勢ヲ示サントス。

博多帶地累年相場表（十匁ニ付）

| 年次 | 男帶極上品 | 同上品 | 同中品 |
|---|---|---|---|
| 明治廿九年 | 最高 〇、八五<br>最低 〇、八三<br>平均 〇、八三 | 〇、八〇<br>〇、七八<br>〇、七八 | 〇、七〇<br>〇、六八<br>〇、六八 |
| 同　三十年 | 最高 〇、九〇<br>最低 〇、八六<br>平均 〇、八九 | 〇、八五<br>〇、八一<br>〇、八四 | 〇、七五<br>〇、七一<br>〇、七四 |
| 同　三十一年 | 最高 〇、九〇<br>最低 〇、九〇<br>平均 〇、九〇 | 〇、八五<br>〇、八五<br>〇、八五 | 〇、七五<br>〇、七五<br>〇、七五 |
| 同　三十二年 | 最高 一、一〇<br>最低 〇、九〇<br>平均 〇、九七 | 〇、九五<br>〇、八五<br>〇、八七 | 〇、八五<br>〇、七五<br>〇、七七 |
| 同　三十三年 | 最高 一、二五<br>最低 一、〇〇<br>平均 一、一五 | 一、一五<br>〇、九〇<br>一、〇六 | 〇、九五<br>〇、八八<br>〇、八八 |

今更ニ、明治三十三年ヨリ同卅四年六月ニ至ル各月ノ相場表ヲ示サン。

博多織帶累月相場表（十匁ニ付）

| 年次 | 月次 | 男帶極上品 | 同上品 | 同中品 |
|---|---|---|---|---|
| 明治卅三年 | 一月 | 一、〇〇 | 〇、九〇 | 〇、八〇 |
| 同 | 二月 | 一、〇〇 | 〇、九〇 | 〇、八〇 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 同 | 三月 | 一、〇〇 | 、九〇 | 、八〇 |
| 同 | 四月 | 一、二五 | 一、一〇 | 、九五 |
| 同 | 五月 | 一、二五 | 一、一〇 | 、九五 |
| 同 | 六月 | 一、一五 | 一、〇〇 | 、八五 |
| 同 | 七月 | 一、二〇 | 一、一五 | 、九〇 |
| 同 | 八月 | 一、二〇 | 一、一五 | 、九〇 |
| 同 | 九月 | 一、二〇 | 一、一五 | 、九〇 |
| 同 | 十月 | 一、二〇 | 一、一五 | 、九〇 |
| 同 | 十一月 | 一、二〇 | 一、一五 | 、九〇 |
| 同 | 十二月 | 一、二〇 | 一、一五 | 、九〇 |
| 明治卅四年 | 一月 | 一、二〇 | 一、一五 | 、九〇 |
| 同 | 二月 | 一、一〇 | 一、〇五 | 、八五 |
| 同 | 三月 | 一、〇五 | 一、〇〇 | 、八〇 |
| 同 | 四月 | 一、〇五 | 一、〇〇 | 、八〇 |
| 同 | 五月 | 一、一〇 | 一、〇五 | 、八五 |
| 同 | 六月 | 一、〇五 | 一、〇〇 | 、八〇 |

（備考）巾廣物、薄物、袴地等ハ十匁ニ付凡ソ五錢高

以上示ス如ク、本品ノ相場ハ凡ソ一定セリ。是レ其製織高ト需要高トガ、常ニ殆ンド定マリテ、大ナル變化ナキニヨラズンバアラズ。亦以テ、本品需要ノ性質範圍ノ如何ヲ察知スルニ足ル可シ。

## 第三節　荷造

博多織ハ、其價廉ナルモノニアラザルヲ以テ、其荷造モ亦之ニ從ツテ稍叮嚀ナリ。即チ木箱ノ中ニ、油紙及澁紙ヲ敷キ、此内ニ商品ヲ入レ、澁紙及油紙ヲ以テ能ク之ヲ包ミ、箱ヲ蓋シ、更ニ其上ヲ莚ヲ以テ蔽フモノナリ。其一箱ノ容量ハ、帶地ナレバ百本位ニシテ、重量凡ソ三十六、七貫目、代價ハ三千圓以外ニアリ。但シ小物ニアリテハ、其荷造稍粗末ナリ。

## 第四節　運送及保險

運送ハ、主トシテ濠船便ニヨル。其運賃ハ、送荷ノ價格ヲ基トシテ計算スルモノニシテ、大阪迄千圓ノ價格ヲ有スルモノニ對シテ凡ソ四圓位ナルヲ通例トス。而シテ其航海中ノ危險、即チ例ヘバ喪失若クハ損害等起リタル場合ニアリテハ、濠船會社ガ其賠償ノ責ニ任ズルノ約定アルヲ常トス。而シテ多ク送荷ヲ取扱フハ、大阪商船會社ナリトス。

博多一般ノ慣習トシテ、船積ニ對シ、海上保險ノ契約ヲ締結スルコト、殆ンド是ナシト云フテ可ナリ。今其理由ヲ聞クニ、其送荷ヲ被保セサルハ、一ハ保險契約手續ノ煩雜ニシテ、無益ニ時間ト人トヲ要スルニヨリ、二ニハ、從來送荷ガ遭難シタル事實、未ダ是ナキトニ基クモノ、如シ。サレバ其貨物ヲ保險ニ附スルモ當業者ガ其保險料ノ拂込ヲナス頃ニハ、既ニ仕向先ヨリ該貨物到着ノ報知ヲ得ルコト多キヲ以テ、其支拂ヲナスヲ無駄ナリト感ズルモノニシテ、且他方ニ於テハ、濠船會社ノ運賃ガ幾分カ高クトモ、前述ノ如ク貨物ノ損害ヲ賠償スルノ約ヲ結ブヲ得ルヲ以テ、反ツテ之ヲ便トシ、別段ニ保險會社ニ保險ヲ托スルコトヲ不用ナ

リトスルモノナリ、而已ナラズ航路ノ如キモ、僅ニ玄海洋ヲ横ギルノミニテ、殘餘ハ皆平穩ナル瀨戸内海ノ事ナレバ、益々保險ノ不必要ヲ感ゼシムルナリト云フ。

## 第十二章　職工及徒弟

### 第一節　職工及徒弟ト主家トノ關係及其風儀

博多機業者ハ、毎戸數名ノ徒弟ヲ養成ス。中以上ノ當業者ニアリテハ、數十人ニ上ルコトアリ。徒弟ハ一ニ之ヲ見習ト稱シ、染織業ヲ見習ハンガ爲ニ、奉公スルモノニシテ、通常當市在住ノ保證人二名ヲ要シ、年期ハ五年ヨリ七年ニ至ルモノトス。主家ニ起臥シ、衣食ヲ給ス。而シテ給金ニ關シテハ、從來ハ少許ノ小遣錢ヲ與フルニ過ギザリシガ、斯クスルトキハ業務ニ熱心ナラザルノ弊アリシヲ以テ、近來ハ其舊時ノ慣習ヲ廢止シ、更ニ相當ノ賃銀ヲ給與スルニ至リタルナリ。又徒弟中ニハ、同市ニテ相應ノ資產アルモノヽ子弟ニシテ、業務ヲ會得センガ爲メニ、服務スルモノ少ナカラズ。

徒弟ノ年期ヲ終レルモノハ、任意ニ其業ニ從事スルコトヲ得ルコト勿論ナレトモ、通常舊主家ノ本職工トシテ、雇ハルヽモノニシテ、多クハ一家ヲ持チ、日々工場ニ通勤ス。而シテ此等職工ハ、男子其多數ヲ占ム。

維新前ニ於ケル、職工及徒弟ノ風儀ハ、宜シクシテ規律能ク整ヒシモ、維新後藩主ノ制限法廢セラレテヨリ、弊習盛ニ行ハルヽニ至レリ。然ルニ、明治廿一年十一月トナリテ、同地ノ數名ノ職工相謀リテ、職工組合ヲ起シ、雇主及被雇人間ノ關係ヲ密接ナラシメ、併テ其弊風ヲ矯正センコトニ務メタリ。此組合ハ、其維持法ニ於テ完備セザル點、少ナカラサリシ爲メ、終ニ解散スルノ已ムヲ得ザルニ至レリ。後廿八年五月ニ至リ、染工、機工、及織工相議シテ、再ビ、博多織業職工組合ヲ組織シ、十數條ノ規約ニ依リ、雇主ト職工トノ關係ヲ密接ナラシメタリ。

斯ノ如クシテ、近時職工ノ風儀大ニ善良トナルニ至リ、從ツテ彼ノ賃錢ノ前借アルニモ拘ハラズ、漫ニ他家ニ移ルガ如キ、或ハ工女ノ如キ不品行ノ爲メニ中途ニシテ去ル等ノコトナク、各自適宜ニ織賃ノ幾分ヲ郵便貯金ニ預入ル等ノ事行ハルヽヲ見ルト云フ。

最近ノ統計表ニ徵スレバ、同地ニ於ケル職工及徒弟ノ數左ノ如シ。

| | 男 | 女 | 計 |
|---|---|---|---|
| 職工 | 四二〇 | 八五 | 五〇五 |
| 徒弟 | 五〇〇 | 一二〇 | 六二〇 |
| 總計 | 九二〇 | 二〇五 | 一、一二五 |

### 第二節　賃銀及其仕拂方法

賃銀ハ仕事高ニ應ジテ仕拂フモノニシテ、製品ノ品質仕上等ノ點ヲ參酌シテ之ヲ定ム。例ヘバ帶地ニ付テ云ヘバ、一本ニ付何程ト稱スルガ如シ。熟練ナル職工ハ、一日ニ帶地一本ヲ織リ上グルコトヲ得ト云フ。而シテ其一日ニシテ得ル所、凡ソ五十錢乃至七八十錢ニシテ、夏期ニ至レバ、中ニハ一ケ月三十五圓位ノ收入ヲ得ルモノアルニ至ルト云フ。

賃銀ノ仕拂ハ一機毎ニナスモノアリ、一ケ月ニ兩度即チ一日十五日ニ仕拂フモノアリ、又月末拂ノモノモ

アリテ、一定セズ。而シテ賃銀ノ前貸ハ種々ノ弊害アリシ爲メ、目下之ヲ許サヾルモノアリ、或ハ猶ホ依然トシテ之ヲ許スモノアリト云フ。

第三節　勞働時間及休日

勞働時間ハ春夏及ビ秋冬ニヨリ相違アリ、今之ヲ擧グレバ左ノ如シ。

一、春　夏

始　業　午前六時乃至六時三十分

終　業　午後七時

二、秋　冬

始　業　午前七時

終　業　午後九時　（夜業ヲ含ム）

但シ晝食時ニ凡ソ一時間ノ休憩時間ヲ與フ

夜業ヲナサシムルハ、舊八月節句ヨリ翌年舊三月節句ニ至リ、或ハ八朔ヨリ翌年舊五月ニ至ルモノアリ。而シテ右ノ表ニヨリ勞働時間ノ甚ダ長キコトヲ知ルベシ。

祭禮祝日等ニハ休日ヲ與フルノ慣習アリ、此等ノ休日ハ一ケ年ヲ通シテ三十日前後ナル可シト云フ。

第四節　奬勵方法

職工ノ奬勵法トシテ、年末ニ賞與ヲ給與スル等ノ事アリ。又近年、徒弟ノ試驗ナルモノヲ設ケ、同地工業學校内ニテ之ヲ行ヒ、毎年三月同校ニテ卒業證書授與式ヲ擧ゲ、同業組合ノ組長之ヲ授クルヲ例トス。然レドモ、其試驗ノ如キ、素ヨリ不完全ニシテ、徒弟ハ他人ニ教ヲ仰ヒデ、其答案ヲ作ルガ如キ有樣ナルナリ、然レモ其試驗ノ目的ハ、奬勵ニ在ルガ故ニ、他人ニ聞クニヨリテ技能ヲ增スノ理ナレバ、之ヲ咎メズ。而シテ、該證書ハ、雇入ノ際、給料等ニ多少ノ關係ヲ有スト云フ。

## 第拾參章　博多機業ニ對スル意見

### 第一節　現時ニ於ケル博多機業ノ批評

博多ニ於ケル、帶地ノ製織ハ、昔時ヨリ盛ニシテ、且其技モ亦從ツテ進歩セルヤ疑ナシ。然レトモ、其他ノ製作品ニ至ツテハ、一モ見ルニ足ルモノナク、產額亦至ツテ尠ナシ。去レバ、帶地ハ博多織ヲ代表シ、同地ノ機業界ハ、博多帶ニ對スル需要ノ增減ニヨリテ、其消長ヲ左右セラル、モノヽ如シ。然リ、而シテ、其需要ハ、今日ニ至ル迄急激ナル增減ヲ來サザリシヲ以テ、幸ニ當業者間ニ、恐慌等ノ災害ヲ釀スニ至ラザリシガ、之ト同時ニ、其產額ハ未ダ大ニ增進セズ。即チ明治二十五年ノ產出量ヲ百トスレバ、同三十三年ニハ百二十五ニシテ、僅ニ二割五分ノ增額ニ過ギザルナリ。此ノ如ク、凡ソ拾年間ニ於ケル增加ノ割合ガ、僅ニ二割五分ニ止マルガ如キ、進歩ノ遲々タルハ、即チ如何ニ博多帶地ノ需要ガ一定シ、從ツテ其供給モ之ニ伴フテ一定シ、之ヲ增加スル能ハザルノ情況ヲ推知スルニ足ル。是ヲ以テ見レバ、博多機業ノ現在ハ、彼ノ桐生足利等ノ諸織物地方ガ、鋭意世上ノ需要ヲ喚起シ、以テ販路ノ擴張ニ務メ、更ニ進ンデハ、海外輸出ヲ奬勵スルガ如キ有樣ト全然異ナリ。後者ハ、進取ノ氣象外ニ溢ルヽモ、前者ハ、保守ヲ旨トスルモノナリ。而シテ此

ノ如キ情況ハ、獨リ帶地ニ止マラズシテ、其他袴地ノ如キ、或ハ着尺地ノ如キ、比々皆其然ルヲ見ル。然リ而シテ他方ニ於テハ、博多織ノ摸造品ハ、到ル處ニ製セラレ、殆ンド本場ヲ凌駕スルノ形勢ヲ示シツヽアリ。又帶地以外ノ製品ニ關シテハ、常ニ他地方ノ製作品ニ壓倒セラレツヽアリ。是等ヲ綜合シテ考究スレバ、博多機業ノ前途、誠ニ寒心ニ堪ヘザルモノアルヲ見ル。若シ夫レ當業者ニシテ、將來尙依然トシテ舊慣ヲ墨守シ、無爲ニ甘ンヲテ、進取ノコトナク、限アル需要ヲ以テ唯一ノ目的トスルニ止マランカ、盛衰隆替特ニ常ナキ、機業界ノ前途亦知ル可キノミ。然ラバ則チ是等ノ弊ヲ去リ、將來ノ發達ニ關スル方法ヲ攻究スルハ目下ノ急務ナリト云ハザルコトヲ得ズ。是レ余輩ガ、次節以下其振興策ヲ述ブル所以ナリ。

## 第二節　博多機業振興策ヲ論ズ

### 第一款　意匠ノ奬勵發達

意匠ガ美術工藝品ニ在リテ、必須缺ク可カラザルハ、余輩ノ言ヲ俟タズシテ明ナル所、特ニ其織物ニ於ケル地質ノ精良ト相待ツテ、製品ノ聲價ヲ發揚シ、需要ヲ喚起スルハ、亦説明ヲ要セザル所ナリ、我國ニ於ケル機織業ガ近來大ニ發達シタルニモ拘ハラズ其製作品ノ意匠圖案ニ至リテハ、未ダ其見ルニ足ルモノナキハ、主トシテ過去ニ於テ、之ヲ尊重スルコトナカリシニ由ルモノナリ。是ヲ以テ、其稱シテ意匠ト云ハルヽモノハ、唯昔時ヨリ同一ノモノヲ襲用シタルカ、若シクハ多少ノ變改ヲ施シタルモノニ過ギザルモノニシテ、要スルニ、依然舊套ヲ慣守シ、亦遠ク其範圍ヲ超脫スルコト能ハザルハ、余輩ノ深ク遺憾トスル所ナリ。然ルニ眼ヲ轉ジテ歐洲諸國ノ機業者ヲ見ルニ、如何ナル小規模ノ織工場ニアリテモ、必ズ圖家ヲ聘用シ、以テ着々意匠ヲ改良シツヽアルハ、世人ノ能ク知ル所ニシテ、彼ノ所謂舶來品ガ、常ニ其意匠ニ豐富ナル、亦其故ナキニ非ザルナリ。幸ヒナル哉昨年巴里市ニ於テ開設セラレタル萬國博覽會以後意匠圖案ノ重要ナルコト本邦人ノ認ムル所トナリ、漸ク之ガ研究ヲ開始スルモノアルニ至レリ。高等工業學校内ニ設ケラレタル圖案科ノ如キ即チ是ナリ。

抑モ意匠ハ、萬般製作物ノ依テ以テ活動スル所ノモノニシテ、意匠ナキ織物ハ、到底世人ノ注意ヲ惹クニ足ラズ。況ンヤ時勢ノ嗜好ニ投シ、其販路ヲ擴張スル等ノ事ハ、到底之ヲ見ルヲ得ザルナリ。而已ナラズ一且之ヲ輸出スルモ、意匠ニ富メル外國品ニ抗抗スルノ不能ナルヤ明白ナリ。之ヲ要スルニ、一般ノ大勢上、意匠ノ良否ハ以テ織物ノ優劣ヲ定ムル重要ナル標準トナリシモノナリ。以上ノ如ク、意匠ノ大切ナル、特ニ織物ニ於テ然ルニ、今博多織物ノ意匠ノ不完全ナルコト誠ニ驚クニ堪ヘタリ即チ同地産ノ織物殊ニ帶地ノ如キハ所謂獻上柄ト稱スル如キ或ハ古來採用シ來レルモノヲ、今尙襲用シ、亦新奇ノモノナシ。前ニ之ヲ述ベタルガ如ク、意匠ナキモノハ、假令精撰ナル地質ヲ有スルモ、其地質ヲシテ、充分ナル價値ヲ發輝セシムル能ハズ。彼ノ普通云ハル、如ク、博多織物ハ糸ヲ買フニ等シトハ、從來當業者ガ、不正品ノ皆無ヲ意味ストシテ誇レル所ナリシモ、爾後ハ全ク其反對トナリ、其意匠ノ平凡ニシテ、織物ノ價格ガ、單ニ地糸ノ價格ニ過ギザルコトヲ證明スル一適言トナリシナリ。

去レバ、製品ノ眞髓タル、意匠ノ改良進歩ヲ計リ、以テ博多織ノ需要ヲシテ、從來ノ如ク一方ニ偏スルコトナカラシメ、社會全般ヲ通ジテ、之ヲ供給スルニ適セシムルハ、目下ノ急務ナリト云ハザルコトヲ得ズ。然リ

而シテ其方法ニ至リテハ多々アル可シト雖モ、余輩ノ認メテ最モ適當トスルモノヲ說述ス可シ。

### 第一項　職工奬勵金

職工ニ附與ス可キ奬勵金ハ其目的ヨリ分チテ之ヲ三ツトスルヲ得可シ。一ハ即チ織量ニ對スルモノナリ。換言スレバ、此種ノ奬勵金ハ織量ノ多額ヲ目的トスルモノナリ。二ハ即チ業務ニ關スルモノニシテ、該種ノ奬勵金ヲ得ルモノハ業務ニ精勵ニシテ、且ツ他人ノ模範トナル可キ操行ヲナサザル可カラズ。以上二種ハ、共ニ各地ニ於テ施行セラルヽモノニシテ、博多當業者モ亦、斯ノ如キ方法ヲ用フ。此等ノ奬勵金ハ其目的ニ於テ大ニ可ニシテ、其効大ナルヤ疑ヲ容レズ。余輩カ爰ニ提言セントスルモノハ第三種、即チ意匠ニ關スル奬勵金ナリ。此種ノ奬勵金ハ、既ニ足利佐野等ニ於テ行ハルヽモノニシテ、其ノ結果良好ナリト聞ク。此等ノ地方ニテハ、職工ノ分業盛ニ行ハルヽヲ以テ大ニ便利ニシテ、紋書ト稱スルモノガ專ラ意匠圖案ニ從事スルガ如シ。去レバ職工ノ分業殆ンド皆無トモ稱ス可キ博多ニアリテハ。俄カニ之ヲ摸スル能ハザルト雖モ職工奬勵金ノ規定ヲ設クルニハ困難アルコトナシ。職工ニ圖案意匠ノ必要ヲ悟ラシメ、之ガ研究ヲ奬勵セバ其結果トシテ或ハ時好ニ應ズ可キ意匠ヲ工夫シ、或ハ從來ノ意匠ニ改良ヲ施スニ適スルハ明カナリ。然ラバ博多織物ノ意匠モ之ガ爲ニ一層改良セラレ、時ニ嶄新ナルモノヲ發明スルコトナクンバアラズ。且ツ職工ハ、平常眼前ニ現物ヲ目擊シツヽアルモノナレバ。配色ノ善惡其他ヲ判別スルニハ、極メテ便利ノ位地ニアリ。故ニ余輩ハ博多市ニ於ケル當業者及ビ同業組合ガ、其規定中ニ、此種ノ奬勵金ヲ設ク可キヲ希望スルモノナ



意匠研究會ハ、染色研究會ト等シテ、製織業ニ欠ク可カラザルモノニシテ、其意匠圖案ノ改良進步ノ上ニ寄與ス可キ効力、決シテ少ナラザルナリ。然ルニ博多ニ於テハ、此種ノ機關ナキハ誠ニ大ナル欠點ト云ハザルコトヲ得ス。一定ノ日ヲ期シ、機織業者、染色業者及撚糸業者等ガ互ニ集會シ、以テ各自ノ研究シタル事項ニ付キ會員ニ報告シ、併テ他人ノ經驗ヲ聞クヲ得バ、相互ノ利益トナル可キヤ疑ヲ容レズ。時ニ斯道ニ熟練ナル人ノ講話ヲ聞クモ可ナル可ク、且ツ廣ク、意匠圖案ニ關スル東西新舊ノ資料ヲ蒐集刊行シテ、之ヲ頒布スルモ一策タル可シ。然ラバ本會ノ考案ニ係ハル意匠圖案ハ、直ニ博多織ニ適用セラルヽヲ得可ク、之ニヨリテ、時勢ノ嗜好ニ投シ、且流行ノ先導トナルヲ得ルヤ明ナリ。前述ノ如ク歐州諸國ニテハ、意匠ヲ業トスルモノアルモ、本邦ニ於テハ未ダ此種ノ職業ヲ有スルモノ少ナシ。故ニ各工場ニ之ヲ雇用スルガ如キハ至難ナリ。是ヲ以テ多數集合シテ研究ヲ試ミルハ、各自單獨ノ研究ニ優ル。是レ余輩ガ、意匠圖案研究會ノ開始ヲ切望スル所以ニシテ。現今福岡工業學校ニテ稍此事ニ注目スルモ、其博多織物ニ適用スルニ足ル意匠等ヲ發明スルハ稍遠キコトニシテ、決シテ之ニ專賴スルニ足ラサルナリ。

### 第三項　共進會ノ改良

夫レ技術ト意匠トハ、共ニ織物ノ價値ヲ左右スルモノナリ。技術如何ニ良好ナルモ、意匠ニシテ不可ナランカ、其製品ハ活力ヲ有スル能ハサルト同時ニ、意匠如何ニ見ルニ足ルモノアリトスルモ、製作ノ技術拙ナランカ、是ヲシテ充分ノ聲價ヲ有セシムルヲ得ズ。此二點共ニ重要ニシテ決シテ彼ニ重ク此ニ輕キガ如キコ

トアル可カラザルナリ。然ルニ從來博多地方ニ開設セラレタル共進會又ハ品評會ノ類ニ於テハ、比較的技術ノ點ニ重キヲ置ケルモノヽ如シ。即チ出品ノ製作纖密ニシテ、多クノ時間ト多クノ勞力トヲ費ヤセルモノヲ優等トシ、其製品安價ニシテ且ツ時好ニ投ゼ好評ヲ博スルニ足ルモノヽ如キニ至テハ、稍々冷淡ナルノ傾アルモノヽ如シ。斯ノ如キハ決シテ意匠ヲ奬勵スル所以ニアラザルナリ。故ニ予輩ハ其審査方針ヲ改メ、技術ノ進歩ヲ圖ルト共ニ、亦大ニ重キヲ意匠ノ點ニ置クコトヲ望マサルヲ得ズ。而シテ從來ノ共進會ノ外ニ、猶ホ意匠奬勵トシテ、單ニ圖案共進會ノ如キヲ開クモ亦一策ナルベシ。若シ夫レ此等共進會ニ於テ優等ト認メラレタル意匠ニ關シテハ、適當ノ年限ヲ定メ、其考案者ニ專用權ヲ附與スルコトヲ得バ、共進會ノ效用更ニ大ナルモノアラム。

## 第二款　製織種類ノ擴張

博多製織物ノ種類ガ僅少ニ過ギザルハ、注目ス可キ點ナリトス。余輩ノ見ル處ニヨレバ、製織種類ノ擴張ハ確ニ同地機業ノ振興ニ、與ツテ力アル可キモノナリ。何ントナレバ、博多現時ノ製織物ハ、專ラ內地ノ需要ニ應ズル爲メニ出サルヽモノニシテ、帶地ヲ中心トシテ、袴地着尺地等之ニ附屬ス。而シテ、其販路ヲ熟察スレバ、皆我國社會階級ノ一部ニ限ラルヽモノニシテ、遍ク各地ニ於テ、需要セラル可キモノニアラズ。サレバ、其販路ヲ擴張セントスルモ、其製品ノ性質上不能ナルモノニシテ、博多織物ノ需要ト供給ガ每年略一定セルハ此理ニ基ヅクモノナリ。故ニ博多機業ノ發達隆盛ハ其製品ノ性質改良ニヨリテナサレザル可カラズ。余輩ガ前款ニ於テ意匠ニ就キ論ジタルハ之ニ基クモノナリ。然リト雖モ、現今ノ如ク少數ナル織物ノ種類ニテハ、到底充分ナル機業ノ振興ヲ見ル能ハズ。之ト同時ニ廣ク諸種ノ物品ヲ製織シ、以テ世上ノ需要ニ應ゼザル可カラズ。然ラバ如何ナル種類ヲ以テス可キヤト云フニ、彼ノ京都桐生足利等其他ノ地方ニテ出サルヽモノヲ加フルヲ可トス。羽二重ノ如キ、金巾ノ如キ、衣服用諸織物ノ如キ、皆是ナリ。去レバ一方ニ於テハ博多、本來ノ織物ノ如キハ之ヲ其儘繼續シ、之ニ改良ヲ加ヘテ、充分ニ聲價ヲ發揚スルト同時ニ、他方ニ於テハ、在來ノ製作品以外ノモノヲ產出シ、以テ一般ノ需要ニ應ズルコトトセバ、大ニ機業界ノ隆盛ヲ來ス可キナリ。人或ハ曰ハン、製作物種類ノ增加ハ可ナルモ、其原料ノ獲得ニ附帶スル不利益ヲ如何セント。之レ誤レルモノニシテ、論者ノ云フ如ク、九州地方ニ於テハ製糸業未ダ充分ニ發達セズ、從ツテ大ニ不便ヲ感ズルコトヽナルモ、而モ此不便ハ余輩ノ考ニ依レバ容易ニ除去セラル可シ。當業者ハ九州產ノ製絲ニ不足ヲ感ズレバ、大ニ京坂地方ヨリ其原料ヲ得ルヲ得可シ。其費用ハ、製品ノ價格ノ上進ニヨリテ、容易ニ相償フヲ得可シ。即チ生產費ハ稍增加ス可キモ、製品ノ擴張、販路ノ增加、意匠ノ改良ニヨツテ生ズ可キ、製品價格ハ之ヲ償フテ猶餘アルニ至ル可シ。且ツ九州地方ノ製糸業ハ將來永ク幼稚ノ域ニアルモノニアラザル可ク當業者ガ、利便ヲ享クルニ至ルハ、蓋シ遠キニ非ル可キナリ。

## 第三款　海外輸出ノ奬勵

博多ハ本邦輸出入港ノ一タリ。海外ヨリ輸入シ、海外ヘ輸出スルモノヽ、年々其額少カラズ。而モ其輸出額ノ首位ヲ占ムルハ米穀ニシテ、石炭其他之ニ亞ギ、織物ニ至ツテハ一モ是ナキハ何ゾヤ。彼ノ近時製織ヲ始メタル洋服地ノ如キ、先年米國市俄古ニ於テ開設セラレタル萬國大博覽會ニ於テ好評ヲ得タリ、去レバ當時

博多當業者ハ此ノ時機ヲ利用シテ、海外輸出ノ道ヲ開キシナラント信ゼシニ、今ニ至ル迄此ノ如キ擧ヲ企ツルモノアルニ聞カズ。若シ夫レ博多當業者ニシテ、彼ノ桐生地方若シクハ足利福井等ノ織物家ノ如ク、進取ノ氣象ニ富ミ、機ヲ見ルニ敏ナラシメバ、洋服地ノ好評ヲ博シタルニ乘ジ、其輸出ヲ盛ナラシメ、且他ノ製品ニシテ、外人ノ需要ニ適スルモノヲ出シテ、以テ其販路ノ擴張ニ盡シタルヤ疑ヲ容レズ。然ルニ惜イ哉、事爰ニ出ズ、空シク博覽會ヲ利用スルコトナカリシハ、當業者ノミナラズ、我國機業界ノ爲メニ、遺憾トセザル可カラズ。然レトモ過去ノ事ハ、之ヲ追フ能ハズ。唯余輩ガ當業者ニ望ム處ノモノハ、其海外販路ニ注目ス可キ事ナリ。前欵ニ於テ之ヲ述ベシガ如ク、製織種類ヲ增加シ、意匠ヲ改良奬勵シ、時好ニ投シ、聲價ヲ發揚スルニ當リテハ、進ンデ販路ヲ海外ニ求ムルハ、蓋シ至難ノ事ニハアラザル可シ。

## 第三節　結論

以上ハ博多機業ニ付キ予輩ノ見ル所ノ大要ナリ。思フニ、現時ノ狀態ニ於ケル博多織ノ業ハ、既ニ緒論ニ述ベタルガ如ク、內ニ在テハ縣下ノ產業トシテ久留米絣ニ及ベズ、外ニ在テハ八王子京都等ノ摸造品ノ爲ニ其販路ヲ蠶食サレツヽアリ。唯古來ノ「名物」トシテ賞セラルヽニ過ギサルガ如キハ、我國機業ノ近年ニ於ケル發達ノ大勢ニ隨ハザルモノニアラズヤ。予輩ガ博多織ノ名ヲ聞クコトヤ久シ、而シテ未ダ其調查ニ從事セザルノトキ、心窃カニ其大ニ見ルベキモノアルヲ期シタリキ。是レ博多織、獨リ機業發達ノ大勢ニ伴ハサルノ理ナシト信ジタレバナリ。シカモ、今ヤ不完全ナガラ其一端ヲ窺フヲ得ルニ及ンデ、尙ホ其規摸ノ小ニシテ、百般ノ事多クハ幼稚ノ域ヲ脫セサルモノアルヲ知レリ。固ヨリ其漸ヲ以テ發達シ、製品ノ如キハ、一種ノ特色ヲ有シ摸造品ノ企テ及ブベカラザルモノアルハ之ヲ認ムト雖モ、其進步ヤ發達ヤ、之ヲ他ノ機業地ニ比シテ速度ノ遲々タルヲ如何ニセン。是レ或ハ九州ニ於ケル工業一般ノ傾向ナルベシ。然レトモ、博多織ハ既ニ發達スベキ根底ヲ有ス、當業者ニシテ銳意其發達ヲ企圖セバ、何ゾ他ノ機業地ト同一ノ步武ヲ取ル能ハサルノ理アランヤ。予輩ガ前節述ベタル所ノモノ、唯其重要ナルベシト信ゼルモノヲ擧ゲタルノミ、其振興ノ策、固ヨリ之ヲ以テ足レリトナスベカラズ。當業者タルモノ眞ニ其振興ヲ望マバ、請フ先ヅ、自ラ他ノ機業地ヲ蹈ミテ、其狀況ヲ視察スベシ。而シテ仔細ニ其發達セル所以ノ理ヲ究メ、之ヲ博多織ノ現狀ニ比較セバ、尙ホ大ニ施設スベキ所アルヲ發見セン。玆ニ一言ノ希望ヲ述ベテ以テ本編ヲ終ル。

明治三十五年五月一日印刷
明治三十五年五月五日發行

東京高等商業學校

東京市麹町區飯田町二丁目廿七番地
印刷者　佐藤梅次郎

東京市神田區美土代町二丁目一番地
印刷者　三光堂